



平成25年11月22日

倉敷芸術科学大学芸術学部と本学薬学部の連携事業の開始

<概要>

伝統と先端の表現の教育を進める倉敷芸術科学大学芸術学部と、疾病と戦う医薬の開発・応用に関する研究・教育を進める岡山大学薬学部とが、たまたま岡山県内の近隣の地に在ったことで出会い、教員同士の交流から、学部間の連携に発展しつつあります。

科学と芸術は、「創造的」活動の双璧を成すものです。創造的な活動は、我が国で現在、急速に必要性が認識されつつあります。芸術は、「自分とは何か、人間とは何か」を問いかけながら、外界（場合によってはそのヒト自身）とのやりとりを契機に発生した「思い」を凝縮し、それを知識と技術を利用しながら創作的活動として対象化します。そしてそれがさらに他のヒトの心を動かすという流れがあります。これに対し、薬学は、疾病という理不尽と相対するための創造的活動です。自然界の構造や現象に研究者自らの挑戦的な活動によってその原理や法則性の解明を進めるという科学の一端を担い、その出口として医薬という手段を開発して、それぞれの疾病の克服を達成しようとしています。こうした研究は単なる工夫・改善に留まるのではなく、真にイノベーティブなものであることが要求されます。

こうした、「創造的活動」の双璧が相互に交流しあうことが、それぞれの創造性をさらに発展させることにつながり、我が国の立ち位置を高めていく一端になればということを念頭に置きながら、次のような連携を進めて参ります。

(1) 倉敷芸術科学大学芸術学部の学生の卒業制作の優秀作品に対して、昨年度末に薬学部長賞表彰を行うとともに、学生の作品の点数を本学薬学部に展示しています。(別紙参照)

(2) 倉敷芸術科学大学芸術学部と本学薬学部の共催によって「くすりと芸術」と題する講演会・シンポジウムを、10月14日に岡山コンベンションセンターで開催し、倉敷芸術科学大学・唐木英明学長の「技術と芸術と科学」と題する記念講演、本学薬学部・山下敦子教授の「自然がデザインした美しい「かたち」—タンパク質の立体構造と機能、そして薬」と題する講演、さらにスライドによる芸術学部の作品の紹介や、「これからの教育と「芸術と科学」」と題した討論・意見交換を実施しました。



これからの教育と「芸術と科学」(ディスカッション)

唐木英明学長、田中孝教授、狩野光伸教授、児島塊太郎学部長、山下敦子教授



岡山大学
OKAYAMA UNIV.

PRESS RELEASE

今後は、こうした交流をさらに深めていきたいと考えています。

次年度は、下記のプログラムを考えています。

- (1) 「科学と芸術」に関する、できるだけ双方向的な講義シリーズの開講
- (2) 薬学部学生と芸大生との共同制作による薬学の紹介 DVD の作製
- (3) 薬学部生の芸大作品展への参加

<お問い合わせ先>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

(氏名) 狩野 光伸

(電話番号) 086-251-7970